

# WITH LIFE

共に生きる

2020  
ウィズライフ  
第52号

テーマ

コロナ禍を生き抜く力



## 私たちの「願い」

私たちは、公益に資する法人として、

- 「高齢者も障がいのある人も社会で共に暮らし、共に生きることがノーマルである」というノーマライゼーションの理念に基づき、
- 高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、
- すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与することを目的に取り組んでおります。

私たちのこの「願い」のため

尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう

心からお願い申し上げます。

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

理事長 土屋 公三

### WITH LIFE 第52号 目次

#### 特集 コロナ禍を生き抜く力

- 4 福祉施設 社会福祉法人わらしべ会
- 6 家族の会 北海道認知症の人を支える家族の会
- 8 患者の会 個人参加難病患者の会「あすなろ会」
- 10 企業 株式会社特殊衣料

#### 12 ここが知りたい

コロナ禍で、民生委員はどんな活動を？

- 14 明るいフクシ探検記 ユニバーサルマナー検定
- 16 生きがい空間 探訪 札幌市 土肥信子さん
- 18 福祉住宅建築助成実例集『ふれあい』
- 19 「ノーマライゼーション住宅財団」活動紹介

2020年11月1日発行

発行人／土屋公三

発行所／公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団◎

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3ルーブル16 9F

TEL 011-613-7551 FAX 011-612-8431

URL <http://normalize.or.jp/>

【制作スタッフ】 ●編集協力／株式会社日本商工振興会

●編集総括／奥野 彰

●取材・文／大藤紀美枝

●写真／酒井伸一

●レイアウト／高部友恵

●表紙イラスト／佐藤正人

●題字／須田照生

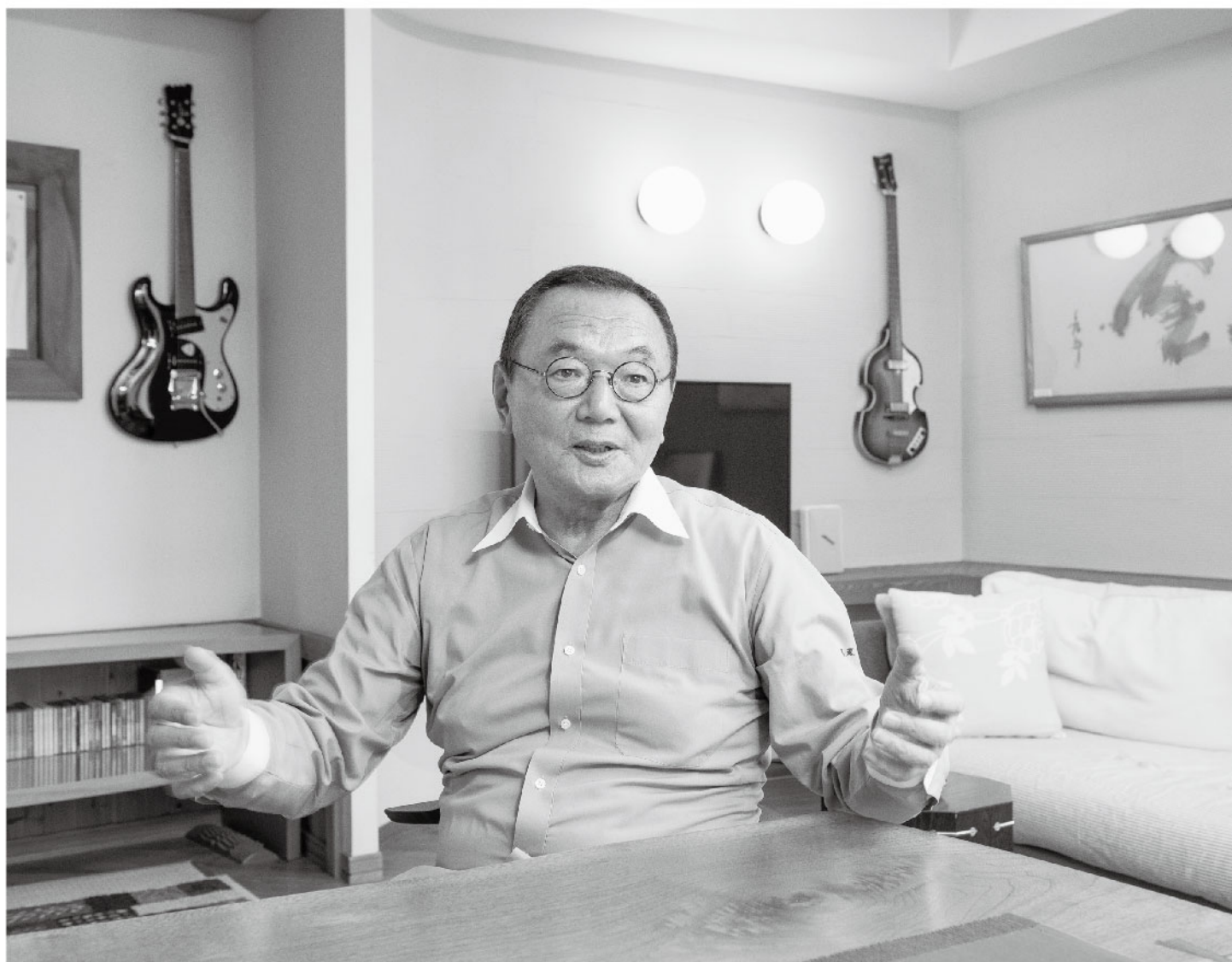
【印刷】株式会社須田製版

我らサポーター

かわもと  
川本 謙さん (71)

学校法人北翔大学 理事  
元株式会社土屋ホーム代表取締役社長  
元土屋ホームスキー部総監督  
公益財団法人ノーマライゼーション住宅財団 理事





オールディーズ(有線放送)が流れる自宅リビングルームで、ノーマライゼーション住宅財団設立につながる福祉住宅開発時の思い出を語る川本さん

一級建築士、川本謙さんと福祉住宅との出会いは、36年前にさかのぼる。勤務する土屋ホームが道の福祉イベントに協賛し、「ノーマライゼーション生涯福祉モデル住宅」を建てることになったのだ。

福祉住宅という言葉さえ世に知られていない状況で、国の関係機関や研究者らに教えを請い、川本さんは1年という限られた期間で完成させた。反響は大きかった。ボランティアの父といわれるA・ディクソン氏はイギリスから視察に訪れ、『夢のような住宅』と評した。

「バリアは、お一人お一人異なります。障がいのある方々に実際に使っていただき、ご意見を住まいづくりに反映させました」

社長就任を機にスキー部を創設。ビジネスと社会貢献をつなぐ柔軟な発想の持ち主は、人を育てる名人でもある。

マイホーム教室や各種セミナーでの講演も好評。ノーマライゼーションの啓発に熱心に取り組む毎日だ。

写真／酒井伸一  
取材・文／大藤紀美枝



葛西紀明選手から贈られた五輪・W杯の記念ゼッケンと共に

# コロナ禍を生き抜く力

新型コロナウイルスの感染拡大は、未曾有の事態を引き起こしています。感染によるリスクの高い方々や支援する方々は、現在、どのような状況にあるのでしょうか。感染予防のための取り組みと課題および打開策を探ってみました。

取材・文／大藤紀美枝

福祉施設 社会福祉法人わらしべ会

## 施設利用者の安心・安全を第一に 使命感をもって、福祉事業に従事



新型コロナウイルス感染下にあつて、福祉に携わる方々はハードワークになる中、献身的に感染予防に努めています。社会福祉法人わらしべ会の川本明良理事長に、感染予防対策と事業への影響などについて伺いました。

理事長 川本 明良さん  
かわもと あきら

不安と恐怖の中で  
情報を集め対策を検討

新型コロナウイルス感染症は、高齢であったり基礎疾患があると重症化しやすいところ

ろから、各福祉施設では全身全霊を注いで感染予防に努めています。

札幌市内に法人本部を置く「わらしべ会」は、重度の身体障がい、あるいは重症心身障

がいのある方などを対象とした福祉事業を行っており、施設に入所している方の多くは中高年。開設以来、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症予防には十分注意を

払ってきました。

しかし、新型コロナは未知の感染症。感染拡大が報道された当初、世の中全体がそうであったように、川本理事長も大きな不安と恐怖を感じたそうです。

「私どもの利用者さんには、重度の障がいをお持ちで、抵抗力の弱い方、体温調節が難しい方、体の内部に障がいをお持ちの方も多いです。もし、入所施設やグループホームで、感染者が出たら大変なことになります。2月、3月と感染が拡大し、とんでもないことが起こっていると認識しました」

全国身体障害者福祉協議会副会長を務める川本理事長は、率先して全国的な連携を図り、わらしべ会では全国のいろんな団体・事業所から得たさまざまな情報を参考に、

感染予防対策の強化を図ったそう。

「マスクを着用、消毒・手洗い・換気を行い、密を避ける」「利用者の外出を控え、帰宅を制限」等をベースに、各施設の状況を考慮し、感染予防に努めるという方向性が示されましたが、川本理事長が判断に特に慎重を期したのは、事業を継続するか否かということです。

「入所施設やグループホームでは、共同生活の中で感染予防を徹底することができました。しかし、ご自宅から通う利用者さんの場合、ご本人だけでなく、ご家族が感染源になる可能性が否めません。そこに強い危機感を持ち、せん越ながら通所事業などをいったん閉めさせていただきました」  
4月に発令された国の緊急事態宣言が、新型コロナ対応



の大きな節目になったと、川本理事長は振り返ります。

## アイディアと工夫で 非常時でも楽しさを

緊急事態宣言時、わらしべ会では、事業を一部休業し、支援内容を縮小。その後も利用者支援内容や地域貢献活動などの制限は続いています。

「私どもは、利用者さんが事



コロナ感染予防に努め施設内での日中活動の様子（札幌苗穂事業所）



## 札幌わらしべ園苗穂事業所

札幌市東区苗穂町3丁目2-35

TEL: 011-776-7981

FAX: 011-776-7982

URL: <https://www.warashibe-hokkaido.net/>

業所に集うだけでなく、事業所から社会に参加していくことを一番大きな使命としています。コロナ感染予防下で、社会参加を目的とした人との交わりが実施できないことが非常に残念です」と川本理事長。

利用者は「外出したい」「行事が自分たちだけで寂しい」といった心情を持ち、職員においては「自分たちは何を目的に仕事をしているのか」といっ

た自問が生まれているそう。

しかし、支援内容に制限がある中でも、できることはあるはず。そのことを各事業所の次のような報告が示しています。

「施設入所者の非日常を演出するために、職員の車と車の間にテントを張って、そこで遊んでもらった」「屋外にテーブルと椅子をセットし昼食を食べてもらった」「施設の中庭に喫茶コーナーを設け、地域の高校生に来てもらった」など、いずれの試みにもアイディアと工夫が光ります。

## 福祉の役割を再確認 経験を今後に生かす

「福祉の仕事を目指す人は、強い使命感を持っています。感染拡大で、今より緊張感があつたときも、職員は出勤してくれました。自宅に子どもがいる人や、高齢者がいる人もです。その責任感、使命感に、法人も助けてもらっています」と、職員のみなさんの頑張り

に感謝する川本理事長。  
職員のみなさんは、夜の盛り場での飲食を控えるなど、自粛生活が半年以上も続いていることから、川本理事長は



コロナ禍にあって、職員が工夫して行った野外昼食（大滝わらしべ園）

ストレスの蓄積を心配し、研修会参加や他の事業所見学ができない状況が続いていることを懸念しています。

わらしべ会では、施設で新型コロナウイルス感染者が発生したとき、さらに感染が広がったときを想定して、段階別の対応マニュアルを作成すると同時に、その間、帰宅を控える職員のための宿泊室を施設内に確保するなど、職員に負担をかけない環境づくりにも努めています。

改めて、コロナ禍での「気づき」を川本理事長に伺うと

「利用者さんにとって重要なことが制限されたことはマイナス要素ですが、困難な状況下で福祉の役割の大きさを再確認できたことは、プラスの

要素だと思っています。

また、従来の感染症に対するマニュアルを、緊迫感のある中で検討することで、弱かったところを改善することができました。マスクや消毒液などの非常備蓄に対する意識が高まったこともプラスと捉えています」とのこと。

札幌わらしべ園苗穂事業所では、コロナ感染予防下で、施設の一部開放や子ども食堂の休止が続いていましたが、9月下旬、自主活動グループに場を提供して、介護予防体操がスタート。利用者も地域住民も待ち望んでいた地域交流が復活の兆しを見せています。

## 社会福祉法人わらしべ会

伊達市大滝区、浦河町、札幌市で、「人としての暮らし」を支援する視点を大切に事業展開。大滝わらしべ園は重度の身体障がいのある人を、浦河わらしべ園は身体障がいのある中高年の人を対象としている。また、札幌わらしべ園は、東区および厚別区に重症心身障がいのある人を対象とした事業所を開設。グループホーム、シェアハウスも運営している。



家族の会 北海道認知症の人を支える家族の会

# どんな状況でも誰かとつながり 介護の悩みをため込まないこと



コロナ禍は、暮らしのあらゆるところに影響を及ぼしています。認知症の方や介護をする方、支援する方は、どのように対応しているのでしょうか。北海道認知症の人を支える家族の会の西村敏子事務局長に状況を伺いました。

事務局長

にしむら  
西村 敏子さん

## 感染予防策を講じ 家族の集いを開催

「緊急事態宣言」「ウィズコロナを意識した暮らし」と、急激な変化に対応していくのは容易ではありません。介護される人や介護する人はなおさらです。

北海道認知症の人を支える家族の会（以下、家族の会）

では、国や行政、各関係団体からの情報をはじめ、介護に役立つ情報を会報等で会員にわかりやすく伝えることに努めています。

また、「家族の集い」「本人の集い」を定期的に開催。電話相談を受け付ける「北海道認知症コールセンター」は、開設10年目を迎えました。

西村事務局長にコロナ禍で

の活動状況を伺うと――。

「認知症の人の家族の集いは、月2回開催しており、北海道本部（札幌）においては、4

月に1回、5月は2回と、3

回休んだだけで、ずっと続けて

います。もちろん、感染予防策は入念に講じています。

6月は、こんなご時世だから、来る方は少ないと予想していましたが、結構集まりました。

北海道認知症コールセンターも、休まず開設しています（平日のみ）。介護をする中

での出来事や悩みを誰かに話したい、共感したい・共感してもらいたいという思いを、みなさんお持ちです。ですから家族の集いも、電話相談もできる限り開いています」

コロナ禍で、多くの団体やグループが集いや会合の開催を自粛しています。例会を開催し続けるには、マスクの着用、消毒、3密を避けることにとどまらず、よほどの注意と覚悟が必要です。

「私自身、身内の介護を経験して痛感したことですが、一生懸命やっても、うまくいかないことがあります。病氣も、十分、注意していても罹るときは罹ってしまいます。」

ですから、先の心配よりも、今、何をするかが大事で、その結果に対し、後悔しないことです。こうした覚悟を決めなければ何もできないし、前にも進めないと思うんです」と西村事務局長は力強く語ります。

## コロナ禍だからこそ 心の扉を開けておく

コロナ禍にあつて、ステイホームが呼びかけられ、親族同士でも訪問を控えるようになりました。また、介護現場では感染予防のためサービス提供を一時休止したり、施設入所者の外出や家族の面会を制限する取り組みがなされています。

家族の会が把握している、認知症の人および家族の経験・状況の一例を紹介すると――。

- ・母とはコロナのせいで、しばらく会っていない。認知症が進んでいるのではと心配。
- ・一人暮らしの母が、不安になって（電話で）いろいろ聞いてくる。
- ・父が一人暮らしをしていて、火の元とか心配。施設に入ってもらおうと思うが、コロナのため見学もできない。
- ・コロナ禍でも、デイサービスがOKで助かった。
- ・デイサービスの一日の利用者の人数調整のため、利用



## 認知症に関する相談は…

### 北海道認知症コールセンター

(北海道認知症の人を支える  
家族の会が開設)

☎ 011-204-6006

(平日:10時~15時)



回数を減らされた。  
・認知症が進んでマスクを付けるのをいやがるので、デイサービスが利用できない。  
・施設に面会に行ってもソーシャルディスタンスをとって話さなければならないし、マスクをしているから会話が難しい。

このような事例を受けて、認知症および介護に精通する西村事務局長は次のように語ります。

「外出を控え、歩く機会が減ると、認知機能も身体機能も低下します。また、人と人のふれあい無しに介護はできま

せん。ふれあいが無ければ、病気は進んでしまいます。

介護現場が密室化すれば、煮詰まってしまうでしょうし、それが原因で不適切なケアに至るかもしれません。そうならないためにも、誰かに相談したり、積極的な情報交換が必要ですよ」

オンラインでのリモート会議、介護施設と利用者の親族とがSNSで連携を図るなど、各所で新たな取り組みがなされており、家族の会はタイムリーな情報の収集・発信にも余念がありません。

### 困っているときは 気軽に電話相談を

家族の会が開設するコールセンターには、認知症の人を介護する家族や離れて暮らす親族をはじめ、自分は認知症ではないかと思う人、認知症に関する情報を得たい医療関係者や福祉関係者からも電話がかかってきます。

家族の会事務局で電話を受けるのは、認知症関連の医療・福祉の知識・情報を持つ介護経験者。守秘義務があるので、個人情報および個人が特定される相談内容を他言すること

はありません。

先に紹介した事例のように、新型コロナウイルスに関係した相談もあります。特に多いのは、「本人が病院に足を運んでくれない」といった、受診に関すること。

背景は人それぞれなので、アドバイスもいろいろですが、「夫婦間よりも、子どもや孫の言うことを聞く方が多いようです」と受診を促す役目を工夫してみることや、「〇歳になったなら、認知症の検査しておいた方がいいみたい」と間接的に話す方法を紹介することも。

同コールセンターの電話相談は、予約無しで気軽に利用できますが、ポイントを押さえておくと、より適切なアドバイスが得られます。

まず、電話をかける前に、悩むに至った理由を時系列で整理し、質問事項をメモしておきます。それを見ながら話すと、話しがスムーズに進みます。

住んでいる地域、年齢、家族構成、病歴など、自身に関する情報をできるだけ詳しく提供しましょう。そうすることで、より具体的なアドバイスが得られます。

また、アドバイスを聞き逃さないためにも、家族で情報を共有するためにも、子世代に立ち会ってもらい、スマホや受話器の「スピーカー機能」を活用して、何人かで聞くこともおすすめです。

### 不安は抱え込まず 語って吐き出す

「認知症の方のお世話をするに当たり、受診に限らず、無理強いはいしないこと。ご本人の気持ちを尊重し、よく話し合い、合意を得ることが大切です。信頼関係が崩れると、その後、一層、難しくなります」と西村事務局長は、どんなときも人としての尊厳を守ることとを強調します。

家族の会が開催する「本人の集い」に参加したある方は、「認知症に対して暗いイメージを持っていただけ、意外に明るく、いろんなことができることがわかった」とおっしゃったそう。

「自分の中にこもると、思考が後ろ向きになります。不安や悩みは、人に話して吐き出すに限ります」と西村事務局長は認知症の人、介護する人、見守る人に、笑顔で呼びかけます。

## 北海道認知症の人を支える家族の会

札幌市中央区北2条西7丁目かでる2.7 4階

TEL&FAX: 011-204-6006 URL: <https://www.ninchisyo.com/>

1987年設立。認知症の人とその家族を支援し、福祉の向上を目指して活動。認知症への関心と理解を深めるために、「家族の集い」「本人の集い」「研修会」等を開催。電話相談に応じている。来所相談も可。現在、全道8ブロック・48支部あり、会員は約2,400人。



認知症の人の  
介護体験記録集  
(北海道認知症の  
人を支える家族の  
会発行)



患者の会 個人参加難病患者の会「あすなる会」

# 病と共に生きる経験を生かし コロナ禍を冷静に受け止める

基礎疾患があると、新型コロナウイルスに感染すると重症化しやすいといわれます。そうした心配がある中、会報の編集等に当たる個人参加難病患者の会「あすなる会」の小西淳子会長は、タイムリーな企画で情報を発信。参考にしたい同会の取り組みを紹介します。

会長 小西 淳子さん

## 難病を抱える患者と 家族が集まり会を運営

原因がわからず治療法が確立されていない、いわゆる難病といわれる疾病がある方々は、さまざまな不安や苦悩を抱えています。各所で、互いに支え合う患者の会が立ち上げられています。地域に同じ病名の患者が少なければ、それもありません。

個人参加難病患者の会「あすなる会」は、一つの疾病で患者の会が組織されないか、

あっても北海道で活動していない疾病を抱える患者・家族の会です。現在、会員は76人。疾病数は30を超え、そのうち半数が1疾病につき1人という状況です。

同会の会長を務める小西さんは、難病患者の家族として熱心に運営に取り組んできました。北海道難病連札幌支部の事務局長を兼務し、インターネットをフル活用して会員に役立つ情報を収集・発信しつつ、役員諸氏と共に会員を励まし、元気づける工夫をして

います。

「新型コロナは、人類にとって『初めまして』のウイルス。感染予防や治療に必要なデータがそろっていない中で、高

年齢、疾患あり、その治療方法などにより、感染したら重症化しやすいといわれ、当会の会員さんたちにも『自分が感染したらどうなるのか』という不安が広がりました。

いろんな情報が飛び交う中、間違っているものが散見されたので、3月に会報の臨時号を発行。新型コロナを正しく

理解し、感染予防に欠かせない情報を発信しました」と小西会長。

会の性格上、疾病ごとの情報を流すのは難しいので、毎号、療養でくくって企画を立てているそう。6月の会報では、病理医の寄稿をメインに、公費負担医療費に関する情報等を掲載。10月にも臨時号を発行し、11月の会報ではコロナ特集を企画しています。

## コロナから気をそらし 暮らしに楽しみを

今年5月、北海道難病連が加盟疾病団体（患者会）会員を対象に実施した緊急アンケートによると、回答者の9割強が、「療養生活を送る上で新型コロナが不安」と答えています。そして、約4割が「病院受診予定を取りやめた・控えた」と答えています。

小西会長の娘さんは、20代で慢性炎症性脱髄性多発神経



会長 小西淳子さん（左）、会計担当 永井智恵子さん（右）

炎（CIPD）を発症。近年は、家庭と仕事を両立させ、月1回の割合で通院していましたが、新型コロナが発生してからは、担当医師の提言で通院を2カ月に1回にしたとのこと。

「コロナ禍での通院をどうするかは、担当の先生と相談して各自で決めるしかないのが実情です。今年度は、あすなる会の交流会も取りやめることとしました。こうした先が見えず、自粛を余儀なくされる、中ぶらりんな状態は、不安で落ち着かないものです」と語る小西会長。





「HSKあすなろ」の臨時号(10月発行)。  
表紙イラストは「3月のライオン」の作者、  
羽海野チカさん提供

Twitter  
収集には、こと

医療関係の情報  
世界の情報  
時に得られます。  
「インターネッ  
トを活用すれば、  
世界の情報が瞬  
時に得られます。  
医療関係の情報  
収集には、こと

「コロナ関連図書を読み、SNSでさまざまな人とやりとりして、『コロナから目をそらすことの大切さ』をつくづ

た状態を指します。もう一冊が『コロナのせいにしてみよう。シャムズの話』(國松淳和著、金原出版刊)。

シャムズとは、コロナ禍で不安に駆られ、具合が悪くなっ

た状態を指します。もう一冊が『コロナのせいにしてみよう。シャムズの話』(國松淳和著、金原出版刊)。

## 得意分野で 会員をサポート

く感じます。コロナ情報があふれるTVを消して、音楽を聴きませんか。家にこもっていいので、散歩しませんか。人と会ったり、動物を飼ったり、植物を育てたりして、いろんな関わりを持ちませんか。そうやって生活を楽しむことに目を向けましょうよ」と小西会長は訴えます。

3密を避ける、テレワーク、オンラインでの会議・授業・受診など、コロナ禍でビジネスシーンも家庭生活も変貌しました。

あすなろ会では、かねてより役員間の情報伝達や会議等にLINE(ライン)やSkype(スカイプ)を活用しており、ウィズコロナの新しいスタイルにきわめてスムーズに対応しています。

「インターネッ  
トを活用すれば、  
世界の情報が瞬  
時に得られます。  
医療関係の情報  
収集には、こと

Twitter  
収集には、こと

医療関係の情報  
世界の情報  
時に得られます。  
「インターネッ  
トを活用すれば、  
世界の情報が瞬  
時に得られます。  
医療関係の情報  
収集には、こと



調査部ではSkypeを使ったWeb会議も

「ツイッター」が役立っています。医療関係者の投稿がチェックでき、それがきっかけで、たくさんのご縁ができました」と小西会長。

このように小西会長が情報通信力を発揮すれば、会計担当の永井智恵子さんはコミュニケーション力

「私は先天性側わん症のため、これまで何度も手術や入院を繰り返してきました。結婚し、子育てをしている間は、家庭のことで精いっぱいでしたが、今は会員の方のピアサポートに努めています」

ピアサポートとは、同じよ

うな立場の人によるサポート。永井さんは、疾患は異なっても、痛みや苦しみ、不自由さを経験してきた患者だからこそ、わかり合い、励ますことができる

## 状況を受け止め 冷静、前向きに

「難病の患者・家族は、日々暮らしていく上で、さまざまなつらさを抱えています。病気を発症したことで、あるいは障がいを持ったことで、以

前の暮らしには戻れない経験もしています。また、マスク着用、手洗いなど感染予防は、コロナ発生以前から、私たちには当たり前のことです」と語る小西会長に悲壮感はなく、状況を冷静に受け止めていることがわかります。

小西会長は着物を現代風に着こなし、永井さんは着物をリフォームした洋服にベレー帽をコーディネート。写真撮影のときのみ、マスクを外していたいただきましたが、お二方そんな状況下でも楽しみを見いだすパワーは、ぜひとも見習いたいものです。

## 「あすなろ会」に関することは...

小西 淳子会長 ☎080-5727-2305

あすなろ会に関する活動をはじめ、病気や病院に関する相談も可。相談内容により、関係機関を紹介したり、同会のピアサポーターにつなぐなど、きめ細やかに対応。

◎Eメールによる問い合わせは、  
hikari773@nifty.comへ。

## 個人参加難病患者の会「あすなろ会」

札幌市中央区南4条西10丁目 北海道難病センター内  
TEL: 011-512-3233 FAX: 011-512-4807  
URL: <http://www.do-nanren.jp/kamei/k01.html>

1973年設立。現在、会員は道内外に76人。会員が抱える疾病はさまざまで、サルコイドーシス、橋本病、側わん症、高安静脈炎など、疾病名は30を超える。会報を発行し、交流会、医療講演会などを開催している。



企業 株式会社特殊衣料

# クリーニング、清掃、マスク製作： 丁寧な仕事を感染予防に役立てる

新型コロナウイルスの感染拡大は収まらず、緊迫した状況が続いています。医療や福祉に  
関する事業を展開する企業は、どのように対応してきたのでしょうか。池田啓子特殊衣料  
会長にコロナ禍で起こったこと、対応したこと、考えたことを伺いました。

代表取締役会長

池田 啓子さん

## 感染物の洗濯に 備えと技術力を発揮

特殊衣料は、リネンサプ  
ライを中心に、清掃、福祉用具  
等に関する事業を行っている  
札幌市西区にある会社です。

リネンサプライとは、利用  
者が必要とするものを有償で  
貸し出し、回収してクリーニ  
ングや補修をしたのち、また  
貸し出すシステム。同社では  
タオル類や肌着・衣類をリー  
スし、病院・福祉施設の寝具  
や職員のユニフォームのク

リーニングを行い、それらの  
リースにも対応しています。

「クリーニング業者として、  
ノロウイルスをはじめ、ウイ  
ルスや細菌に対する感染予防  
を周到に行っています。新  
型コロナは未知のウイルスで、  
当初は対処の仕方が全くわか  
りませんでした。

当社のクリーニング工場で  
は、障がいを持ち基礎疾患の  
あるスタッフも働いています  
し、隣にある『ともに福祉会』  
とも連動していますから、感  
染したら大変なことになります。

す。社を挙げて必死で情報を  
集め、『これならできる』と判  
断した物に限りお受けするこ  
とにしました」と池田会長は、

未知のウイルスにおびえるしか  
なかった当時を振り返ります。

同社の新型コロナウイルス対策の切  
り札となったのが、「院内感染  
防止システムに役立つ水溶性  
バッグ」。感染者の病衣や使用  
した寝具を特殊フィルムでで  
きた、このバッグに入れて厳  
重に扱い、専用のラインでク  
リーニングすることで、感染  
を防ぐことができます。

新型コロナウイルスの感染者が出た

福祉施設からクリーニングを  
打診された際は、状況を正し  
く理解するため、同社担当者  
が施設長と細部まで入念に打  
ち合わせ、双方納得の上で受  
注したそう。

ユーザーの立場で、その尊  
厳を守るために、柔軟に対応  
することを旨としてきた同社  
ならではのエピソードです。

## 独自の清掃ノウハウで 院内感染予防に貢献

特殊衣料の清掃事業は、空  
気中に浮遊する塵やほこりの  
除去も行うなど、独自のノウ  
ハウに基づく清掃システムを  
導入しているのが大きな特色

です。

かねてより菌（汚れ）を持  
ち込まない・持ち出さない・  
拡散させないという感染防止  
の三原則を遵守してきたこと  
も、コロナ禍での作業に役立つ  
ています。

新型コロナウイルスの感染者が北海  
道でも出始めた頃、清掃を委  
託されている病院で濃厚接触  
者が出たとの情報を得た同社  
では、清掃責任者らが現場に  
駆けつけました。

「清掃スタッフは身を守りつ  
つ、病院さんの入院室や外来  
を新型コロナウイルスから守らなくて  
はなりません。作業開始前の  
休憩室で清掃スタッフ全員と  
話し合い、感染防止のために  
すべきことを確認しました」



社屋3階の縫製工場でマスクを手にスタッフと語らう  
池田会長





1. 社屋1〜2階がクリーニング工場。感染物洗濯区域は終業後、責任者が入念に消毒を行う  
2. こくに社員食堂は、密閉・密集・密接にならないよう細やかに配慮  
3. 消毒液も使い勝手を考え、置き場所にひと工夫

と池田会長。  
病院の依頼を受けて、従来の清掃業務に加え、外来の手すりやドア取っ手など、人の手が触れるところを定期的にアルコール消毒することになり、担当者の仕事量は増加。連日となれば、当然、疲労がたまりまふ。

1998年、清掃事業をスタートするに当たり、同社は免疫力に注力して若手を採用しました。時を重ねること22年。現在60人いる清掃スタッフの中には70歳を超えた人もいます。

池田会長は水分補給に飲料水や栄養ドリンクを差し入れ、感謝の気持ちを伝えていくこと。

毎朝、クリーニング工場と縫製工場を回る池田会長は、最も現場を知る人であり、課題を察知し、即、対応する方針を貫いています。

**縫製技術を生かし  
布マスクづくりに挑戦**

コロナ禍で、マスクが「超」が付くほど品薄になったのは周知のとおりです。

特殊衣料という社名も手伝つてか、同社には「布マスク

作ってもらえませんか」との問い合わせが相次ぎましたが、社内縫製工場では、頭部保護帽「abonet」アボネット」をはじめとするオリジナルの福祉用具の製作および特注縫製を行っており、そこにマスクの製造ラインはありません。

布マスクを作るとなれば、デザイン、材料の調達と、一からのスタートとなります。思いあぐねていた池田会長に製作の決断をさせたのは、ある方々の感謝の言葉でした。

「ともに福祉会の利用者さんの保護者さんたちが、毎朝6時半からドラッグストアの前に並んでもマスクが買えないと話すのを聞いて、当社がメーカーや商社から仕入れている不織布マスクを差し上げたら、とても喜んでくださって。：。その様子を見て、よし、布マスクを作ろうと決めました」と池田会長は、その瞬間を力を込めて語ります。

商品企画室を中心にマスクチームを立ち上げてからの対応はスピーディーでした。緊急を要するニーズに対応すべく効率よく製作するために、ラインを組み直し、縫製スタッフ16人全員がマスクづくりに専念。

**積極的に声をかけ  
つながりを大切に**

「コロナ騒動で、新たな経験を幾つもしましたが、マスク不足が深刻化したときには、仕入先各社から「アルコールやデイスボ（使い捨て）手袋はありますか？」とお声かけいただきました。売ってくれるところがあるから、我々は、それを待っているお客さまにお届けすることができまふ。お声かけいただいたことに感謝する」とともに、つながりの大切さを痛感しました」と池田会長。

営業スタッフや事務スタッフは、人気店のスイーツを差し入れたり、マスクの袋詰めを手伝ったり。その輪の中に池田真裕子社長も加わり、4月から5月にかけて、約1カ月の間に約3万枚のオリジナル布マスクを製作するに至りました。



1. 特殊衣料オリジナルの布マスク  
2. 防護服不足に対応して発売した「洗える防護ガウン」

## 株式会社特殊衣料

札幌市西区発寒14条14丁目2-40

TEL: 011-663-0761 FAX: 011-663-0955

URL: <http://www.tomonico.jp/>

1979年設立。病院・福祉施設向けリネンサプライと清掃業務、自社ブランドによる福祉用具の企画・製造・販売等を行う。従業員数169人。女性の雇用は男性の約2倍。65歳以上の人、障がいのある人、病気を抱えている人も共に働いている。

※社会福祉法人ともに福祉会知的障がいのある人たちが安心して働くための入り口と出口を考えた池田会長が中心となり、2004年に設立。

謝するとともに、つながりの大切さを痛感しました」と池田会長。

そうした「声かけ」は池田会長自身、日頃、実践していることで、多くの人が励まされ、勇気づけられているのは前述のとおりです。

特殊衣料は、工場、事務室、会議室、食堂：どこも明るく、清潔そのもの。各部署の風通しもよく、その「つながっている感」が、働く喜び・やりがいのベースになっているのは間違いのないでしょう。



# コロナ禍で、民生委員はどんな活動をしているの？

民生委員は、「地域の一歩身近な相談員」。コロナ禍での活動の状況とともに、顕在化した地域福祉の課題と解決法、そして、ウィズコロナ時代の民生委員活動について、北海道民生委員児童委員連盟の菖蒲信也事務局長に伺いました。

取材・文／大藤紀美枝

## 緊急事態だからこそ自身の安全第一に

—— 民生委員の方々は、訪問活動を行っていることもあり、新型コロナウイルスに関する報道に、即、反応されたのではないですか。

菖蒲 はい。民生委員の方々は、お一人暮らしの高齢者、高齢のご夫婦で住まわられていて、どちらかが病弱だとか、気になる世帯を主として、相



公益財団法人  
北海道民生委員児童委員連盟  
事務局長 菖蒲 信也さん

談に乗ったり見守る活動をしています。児童委員でもあるので、子どものことにも関わっています。低所得のご家庭では、お子さんの衣食にまで手が回らないケースも見られ、やはり相談に乗ったり、見守ったりしています。

ですから、道内において、初の新型コロナウイルスの感染者が確認されて以来、当事務局にも各市町村の民生委員児童委員協議会（以下、民児協）などから、活動に関する問い合わせが相次ぎました。

災害時の活動マニュアルはありますが、新型コロナウイルスの感染拡大は、未曾有のことです。対応マニュアルはありません。したがって、厚生労働省や全国民生委員児童委員連合会が出した留意点、つまり手洗いの徹底、咳エチケット、マスクの着用など、把握できている範囲でお知らせしていました。

—— いずれにしても民生委員の方々は、ご自身がまず、感染予防をしなければなりませんね。

菖蒲 そうなんです。民生委員活動の大前提として、「自身と家族の安全を最優先しましょう」「活動や協力は無理のない範囲で」と繰り返しお伝えしています。

## 活動の実態調査でわかったこと

—— 活動状況を把握するため、行ったことは。

菖蒲 北海道民生委員児童委員連盟（以下、道民児連）では、道内の新型コロナウイルス感染拡大による活動への影響を把握するため、単位民児協を対象に実態調査（調査時点4月1日）を行いました。

その回答の中に、「訪問活動を控え、民生委員カードとコロナウイルスに関するチラシを配布する」という報告があ

りました。こうした「ポスティング」は、民生委員の連絡先を住民の方々に周知する効果がありますし、注意喚起を図る情報提供としても有効で、人との接触を極力控える状況に適した活動スタイルと言えます。

—— 訪問活動に関し、わかったことは。

菖蒲 「通常どおり訪問」は4.3%、「特に気になる世帯のみ訪問」は33.3%、「訪問は控え、電話やFAX、Eメール等による安否確認」は48.3%、「夜間の家の明かり確認などによる訪問を伴わない見守り」は34.4%の民児協で行われていました。

また、半数弱の民児協が、訪問活動の実施を委員個々の判断に任せているとのこと。これは、支援や安否確認を必要とする度合いが、お一人お一人異なることなどが関係し

ていると考えられます。

—— 実態調査で浮かび上がった地域が抱える課題は。

菖蒲 多岐にわたりますが、顕著なところでは、「高齢者が感染の恐れから、買い物等に不便をきたしている」「会話する機会が減っている」「子どもが外遊びできない」「町内会などの活動が自粛され、連携の不十分さが始まっている」等が挙げられます。

また、医療関係者が多く住んでいる地域では、「子どもの留守番に不安を感じ、周りからいじめが生じないか心配」との声もあるとのこと。

—— 個々の支援に関する課題として、どのようなことがありますか。

菖蒲 高齢者に関するところでは、「不安を訴えることが多くなった」「認知症が進行し、隣近所から苦情が出ている」「マスクが無くて、通院できな



「電話による安否確認をしていたが、ある日、自宅で脱水症状を起こし救急車で運ばれた」など。

児童に関するところでは、「児童虐待で小学生が児童相談所へ送致されたが、その後の対応について民児員として活動できない状況にある」「障がい児を持つ家庭は、デイサービスが休みなどのため、疲れ果てている」などの事例が報告されています。

## 民生委員活動も新しいスタイルで

——所得減や失業などで、困っている人も多いのでは。

菫 3月に新型コロナウイルスの影響で休業・失業し、生活資金

の必要な方々を対象とした、生活福祉資金の緊急小口資金

および総合支援資金（生活支援費）の特別貸付が実施されましたが、それに関連する相談が、民生委員のところにも相当数寄せられているようです。申請の仕方がわからない方・手続きが不得手という方もおられるでしょうから、きめ細やかな支援が必要だと思います。

また、不安定雇用の方の場合、解雇された時点で生活が困窮するケースが少なくなく、そうした経済的な相談も民生委員に寄せられていると聞いています。

——コロナ禍で民生委員活動に支障をきたし、ジレンマに

陥ることもあるのでは。

菫 そうですね。感染予防の見地から、訪問したくても、できないケースがあると思います。それから、お宅訪問の際、マスク着用は当たり前となりましたが、マスクをしていないと、相手の表情がわかりづらくなります。お会いして顔色や表情から得られる情報は思いのほか多く、こうしたこと一つをとっても、新たな工夫が必要になってきています。

道民児連では、先の実態調査や関係者からのご意見を参考に、新たな活動スタイルとして、「新北海道スタイルを意識した活動を心がける」「工夫して協議会（定例会）を開催する」など、「これからの活動

7か条」を設定しました。

実践するに当たり、日本赤十字社が作成した「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！負のスパイラルを断ち切るために」（※）を読むことを推奨しています。新型コロナウイルスは、病気、不安、差別の感染を上げ、それらが連鎖しています。正しい知識と考え方を身につける必要性をわかりやすく解説していますから、みなさんにもおススメします。

——コロナ禍で、地域が抱えるさまざまな問題が顕在化しましたが、解決する手立ては。

菫 課題は多種多様で、解決法も異なりますが、地域の方々の連携を強めることが、あらゆる課題解決の支えとなるのではないのでしょうか。

冠婚葬祭を例にとっても、隣近所が関わることがなくなってきましたが、広場でのラジ体操、夏祭り、盆踊りなど、自然な出会いやふれあう機会を意識して設けたいものです。

## 民生委員とは…

民生委員は、地域の人々の暮らしを応援するため、国・都道府県から委嘱されて活動している「一番身近な相談員」。児童や子育て家庭を支援する「児童委員」を兼務し、自治会の区域など、各担当区域を持ち、無報酬で活動を行っている。

相談内容に応じて、役立つ情報を提供するとともに、近隣住民、地域包括支援センター、社会福祉施設などと連携し、問題解決のお手伝いをする。

※地域の担当民生委員を知りたいときの問い合わせ先：  
各市区町村の担当窓口（福祉課など）

## こんな困りごと・心配ごとがあったら、民生委員に相談を！



高齢になり日常生活に不自由をきたしている

離れて暮らしている  
老親の見守りを  
お願いしたい

子育て中のお母さんと交流したい

近所の子どもの様子がおかしくて、心配

失業して、生活費が  
工面できなくなった



※「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！負のスパイラルを断ち切るために」  
[http://jic.or.jp/activity/saigai/news/200326\\_006124.html](http://jic.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html)

## 公益財団法人北海道民生委員児童委員連盟

札幌市中央区北2条西7丁目 かでの2.7  
北海道社会福祉総合センター 4階  
TEL: 011-261-2181 FAX: 011-261-3081  
URL: <http://www.dominjiren.or.jp/>

北海道内178市町村(札幌市を除く)の民生委員児童委員個々が会員の福祉団体。定数は9,970人。担当世帯の平均は一人につき172世帯。



広報誌に実態調査結果を掲載

——一般の方々へ向けてメッセージをお願いいたします。  
菫 コロナ禍で外出を自粛する中で、みなさん「今、自分ができること」を考えたことと思います。そこから、自発的に生まれた動きが数々あります。これからの民生委員活動は、この動きや思いをもとに、暮らしの中の支え合いの機運を育て、地域全体を底上げしていくことが大切であると考えます。地域のみなさんと一緒にこの困難を乗り越え、新たな日常をつくり上げていくことにご協力願います。





# 「ユニバーサルマナー検定」

## ユニバーサルマナーの START

ステップアップ!

### 2級

(座学+実技+試験)  
計5時間

3級より広く実践的な知識を  
を学ぶ。知的障がいや  
精神障がいについての  
理解を深め、実技で  
具体的なサポート  
方法を学ぶ。

### 座学

やさしい語り口で  
わかりやすい!



「ハードは変えられなくても  
ハートは変えられる!」

★専用のテキスト。  
幅広くわかりやすく系図羅列  
よくできてる!

### 車いす利用

★安全で正しい  
車いすの扱い方を学びます。

★講師の  
牧野准子さん

15年前、難病で  
車いす生活に。  
建築士・インテリア  
コーディネーターの  
立場から福祉の  
環境づくりや  
心のバリア  
フリーを伝える  
活動を行っています

「お手伝いできること  
ありますか?」

良い言い方  
例



### 実技研修

こんな苦痛が  
あつたときは……

重!

怖!

難!

ドアがない～



ぐっ!と  
腰を入れるのが  
コツ!



**ユニバーサルマナーとは**  
そんな中、注目されているのが「ユニバーサルマナー検定」だ(主催…一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会)。障がいのある人や高齢者など、自分とは違う誰かのことを思いやり、適切な理解のもと行動することを「ユニバーサルマナー」と名付け、その啓蒙普及を行っている。運営会社も含め、様々な障がいの当事者が、カリキュラム開発や講師を務めていることが大きな特徴だ。

2013年の開始以来、個人や教育

**どうして声をかけられない?**  
例えば、人混みで白杖を手一人歩く人に出会った時。街中で段差に立ち往生する車椅子を見かけた時。何か手助けしたいと思いつながら、声を掛けられずそのまま見過ごした経験はないだろうか。  
勇気が出ない。手助けの方法もわからない。断られるかも? ひょっとして迷惑かも? 小さな心の戸惑いがハードルを更に高くする。  
日本では、高齢者が全人口の28%、障がいのある人が7%、つまり3分の1が外出に何らかの不安を持つ人だ。身内の高齢化や、東京パラリンピックの開催も後押しし、様々な人への理解と向き合い方に関心が集まっている。







●札幌市

どい  
土肥

のぶこ  
信子さん

# 季節を彩る花々をそこかしこで育て 共に愛でることで感動と喜びを

取材・文／大藤紀美枝

## 珈琲店の駐車場に 季節感のある花を

「きれいに咲いていますね」

「ありがとうございます」

「お店の方ですか？」

「いいえ。ここに花を植えさせていただいている者です」

宮田屋珈琲・東苗穂店の駐車場脇の花壇では、初めて会った人同士でも、ほのぼのとした言葉が交わされます。

花々の世話をする土肥信子さん(83)は、現在、札幌市西区のマンションにお住まい。そこからバスを乗り継ぎ、3日に1回のペースで東区東苗穂にあるこの花壇に通っています。

「ここまで片道約1時間。着いて、まず花に水をやって、花がらを摘み、周りの草を取っていると、あつという間に3時間経ってしまいます」

順当にいけば半日の作業ですが、その労力は相当なもの。

しかも、土肥さんは「傘寿」を超えています。

「かなり疲れます。腰も痛いんです(苦笑)。でも、花が待っているくれるので、喜びが勝ります。私と同年代で、コロナの感染予防で家にばかりいたら、脚が思うように動けなくなつたと言う方が何人かいますが、ここに通つたおかげで、こうして動けます」

ワレモコウ、ミズヒキソウ、ユウゼンギク…花々が、元気に語る土肥さんを見守っているかのようです。

## 世話をし花と語らう 花を通じ人と語らう

土肥さんは、福岡県の生まれで、縁あって札幌へ。夫・達さんと3人のお子さんを育て上げた東区伏古の戸建て住宅には、広い庭があり、長年、数々の木や花を育ててきました。そして、育てた植物を知

人に譲ったり、お世話になった病院や縁ができた施設の庭などに移植し、みずから世話をし、通りすがりの人と語らうのを何よりの楽しみとしてきました。

しかし、一昨年、達さんを看取つたのを機に、先々のことを考え、「断捨離」を決意。除排雪に悩まされていた戸建て住宅を処分し、マンションに引っ越すことに。愛着のある家を処分するに当たり、土肥さんが、真つ先に考えたのは、庭の木や花のことです。

「大事にしてきた花から、お譲りしました。さらに、もらい手を探していたところ、自宅から2キロほどのところにある宮田屋さんの駐車場脇の草の茂みが目に飛び込んできたんです」NPO法人を立ち上げるなどして、地域の歴史や文化を次世代につなぐことに励んでいた土肥さんは、自他共に認める「有言実行」の人。面識のあった宮田一也社長に、「花を移植し、世話をさせてもらいたい」としたためた手紙を出し、快諾を得て、今に至っています。

駐車場脇の奥行き2メートル、幅20メートルのスペースは、冬場、雪置き場になると

かつての自宅庭から多年草を移植した花壇で水やりをする土肥さん





1.宮田屋珈琲・東苗穂店の駐車場の花壇の9月上旬の様子  
札幌市東区東苗穂5条2丁目11-18 TEL:011-787-0707  
2.自宅からバスを乗り継ぎ花壇へ 3.晩秋に咲くノコンギクの葉や茎を整え、形よく  
4.夏から晩秋まで花期が長いアゲラタム

あって、土は固く締まっています。昨年9月、草の茂みを前に、土肥さんがしたことは――。  
「長女夫婦の力を借りて、草を抜き、土を起こすことから始めました。土壌改良しなければなりませんから、サンプルを札幌市の緑のセンターに持参して見ていただき、土壌改良に必要な物と、その配合を教えてくださいました」  
サポートしてくれる人は仕事に就いているため、作業ができる日は限られ、重ねて引越に向けて家財の整理をし

### 愛情を注いだ花や木を人が集まるところへ

なければならず、土肥さんは連日てんでこ舞い。土を起し、たい肥やもみ殻燐炭などをすき込み、自宅の庭から移植するので精いっぱいだったと言います。  
土肥さんが、これほどまでに植物に愛情を注ぐきっかけは、少女時代、我が子と同様に大切にしてくれた隣家のおばさんの花畑。その美しい光景と共に人間味あふれるおば

さんの優しさが胸に刻まれているそう。  
加えて、図書館司書時代に、たまたま出会った一人の女性の影響も大きいとのこと。  
「勤務先の周りの荒れ地を耕し、自宅から花を移植して世話をしていると、その方が『あなたになら、この花を差し上げます』と言って、ヨーロツパから種を輸入して育苗した花苗を数々譲ってくださいったんです。その方と知り合ったことで、野の花の風情に開眼しました」



病院の中庭に移植されたショウキウツギ

譲ってもらった花苗の中には、北海道ではほとんど見かけないショウキウツギもあり、土肥さんは、大事に育てて、お世話になった病院の中庭に移植。訪れる人に見事な姿を披露したそうです（その後、別の場所に移植）。  
「時には、花の水やりを、誰かに頼んでもいいのでは」と尋ねると、「花の種類によって、好む水の量は異なります。だから、花を植えた者が世話をするのが一番です」とキツバリ。とは言うものの、自身で思うような世話ができなくなつたときに備え、「時間銀行」(※)の方式を学ぶなど、先々を見とおして速やかに行動するのも土肥さんならではのです。  
また、土肥さんは、かねてより北海道産の麦を使った「麦

わら細工」の伝承と新機軸開発にも努めています。  
「麦わら細工に限らず、手仕事は収入に結びつかなければ、やがて廃れてしまいます。ですから、ぜひとも販売を実現させたいです」  
麦わら細工の花入れに映えるかんな花を育てたいという思いに突き動かされ、駐車場脇の花壇の手入れに余念がない土肥さんです。

### 札幌文化村センター『麦わら細工の会』

FAX:011-728-7280  
札幌市市民活動サポートセンター  
気付 レターケース番号91  
URL: <http://sapporomura.info/>  
北海道産の麦わらを使い、かご、雪の結晶、アクセサリなど、「麦わら細工」の作り方を紹介。ワークショップなどを随時開催している。



かんな花が映える麦わら細工の花入れ(土肥さん作)

※時間銀行「時間」を交換単位として、参加するメンバー間でサービスのやりとりをする仕組み。



# 定期発行の貴重な福祉住宅実例集 「福祉住宅建築助成実例集ふれあい」

担当 西村裕広

住まいをバリアフリーにしたいと思っても、適切な情報は、いまだに不足しています。当財団では年に1度「福祉住宅建築助成実例集ふれあい」を発行し、最新のバリアフリー住宅情報を発信しています。

## 実例を通して 福祉の先端を探る

当財団では高齢者や障がい者が安全で快適に暮らせる「福祉住宅」の普及の寄与を目的に、助成金による福祉住宅建築支援事業を実施しています（p19参照）。年1回実施するこの事業と連動する形で発行しているのが「福祉住宅建築助成実例集ふれあい」（以下「ふれあい」と表記）です。福祉住宅建築支援事業に応募いただいた福祉住宅や、高齢者や障がい者が入所している施設を取材し、それぞれの実例の優れたポイントを写真と文章で解説しているA4サイズ、32ページの小冊子です。

平成元年、当財団が創立した年から福祉住宅建築支援事業並びに『ふれあい』の発行がスタートしました。私が取材から制作までを担当させて

いただくようになったのは平成14年からです。発行は毎年7月末。例年ならゴールデンウィークが終わったあたりから道内、全国各地へと取材で飛び回り、本来であればすでに今年度の最新号が発行されているはずでした。しかし取材先、取材する我々への新型コロナウイルス感染の懸念から、今年は取材を見送らざるを得ないと判断しました。個人的には長年継続させていただいている愛着の強い仕事ゆえとても残念な気持ちがありますが、今回ばかりは事態が事態だけに仕方ありません。なんとかご応募いただいた皆様に助成金をお支払いでき、当財団の事業を一部でも継続できたことは幸いと思わなければいけないと自分に言い聞かせつつ、バックナンバーを

確認しながら新たなデザインなどを構想しています。

## 15年以上の取材を通じて 実感している技術の進化

振り返ると『ふれあい』を通じて15年以上も福祉住宅や施設を取材していることになりました。その間に2度、平成元年から取材した中でも特に優れた実例をまとめた『ふれあい総集編』も編集しました。そのような作業を通じて、バリアフリーについて私なりに様々な思いを持っています。

技術的な面で見ると大いに進歩していると実感します。設備や機器が発達しているだけでなく、設計・施工を担う

皆さんの着想、住む人のニーズへの対応力が高まってきていると感じる実例に、毎年出会っています。同じ障がいがある人でも、それぞれの身体能力等によってニーズは千差万別。通り一遍の知識だけではユーザーのニーズに的確に答えられないのがバリアフリーの難しさです。ユーザーのニーズをしつかり把握した上で、ユーザーも思いつかないプロならではの優れたアイデアの実例などにも、ここ数年は出会えるようになってきました。

## 限られた人だけではなく より広い普及を目指す

とはいっても、それはまだ限られた部分での進化であることも感じます。最近では時流に迎合するようにバリアフリーを謳っているマンションや賃貸住宅などが増えてきていますが、両下肢麻痺の障がいがあり、



手すり、浴室、トイレなど、使う人に最も適した施工の実例が満載

車いすを利用している人がそうした賃貸住宅への入居を申し込むと、対応できないと断られたという話を聞きました。その人は自分で車も運転でき、環境さえ整えば自立生活も可能です。その住宅が何に基づいてバリアフリーを謳っているかわかりませんが、こういう話を聞いて、バリアフリーという言葉だけが独り歩きし、時として都合よく使われている気がするのには私だけでしょいか。当財団の福祉住宅建築支援事業にも稀に似たような物件の応募がありますが、審査の時点で対象外となります。まだまだ日本ではバリアフリーに対する認識は低く、普及や技術開発に対して熱心なのはごく限られた一部の人たちだけということも、私がこれまでの『ふれあい』の取材を通して感じていることです。

年1回ながら定期的に発行している福祉住宅の実例集は、おそらく国内では『ふれあい』だけのはずです。と小さいながらも貴重なバリアフリーの実例集として、より内容が濃くわかりやすい誌面づくりを目指しつつ、バリアフリーの普及の一役を担えればと思っています。



# 公益財団法人「ノーマライゼーション住宅財団」 の活動をご紹介します

小誌『WITH LIFE』を発行している当財団は平成元年設立、公益に資する法人として、「ノーマライゼーション」の理念に基づき、高齢者や障がい者にとっても安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与する」ことを[目的]に、主なものとして下記の[事業]を行っています。

- 当財団では、活動理念・趣旨にご賛同いただける方へ、「賛助会員」の入会をお願いしております。
- 当財団へのお問合せは、本号2頁記載の連絡先へお願いいたします。
- 当財団の詳細につきましては、ホームページ (<http://normalize.or.jp/>) をご覧ください。

## 1 広報誌『WITH LIFE』 『共に生きる』発行

「生涯、快適に暮らしたい」をテーマに、ノーマライゼーションの理念と実践を紹介する当財団の広報誌です。ノーマライゼーションを実践されている方々による具体策、また、関連事例、関連情報源、福祉住宅の実例などの役立つ情報を紹介しています。

■本号通巻52号。バックナンバーを無料提供いたします。



## 2 助成金により福祉住宅の 建築を支援

高齢者や障がい者にとっても安全で快適に暮らせる住宅、また将来身体機能が低下しても安心して生活できる住宅として新築したりリフォームした建築主、およびグループホームや高齢者向けアパートなどの福祉小規模集合住宅の建築主から応募を受け、審査のうえ今後の参考に資する施工物件に対し

て助成金を給付し、また特に優れた物件については設計施工業者さんを表彰させていただきます。

■本年度の募集要項（概要）は左記の通りです。詳しくは当財団までお問合せください。

●募集期間 5月1日～11月30日

●応募方法 当財団ホームページから所定申請書をダウンロードして必要事項記入・提出

●助成金 一件5万円～30万円  
（総額300万円範囲内）

## 3 福祉住宅建築助成 実例集『ふれあい』発行

前項の助成対象物件の中から、さらに選考された事例を、写真や図面つきで紹介しています。専門家のアドバイスや、工夫した点、実際暮らしてみた感想なども綴られています。福祉住宅として新築・リフォームを考えている方などにお役立ていただいております。

■通巻30号。バックナンバーを無料提供いたします。



## 4 小中学生による 「安全・快適アイデア」コンテスト

お年よりや障がいのある人が安心して快適に生活するための、身近な道具・用具、また安全に外出を楽しめる環境づくりなど、様々な「安全・快適アイデア」を小中学生から絵と文字で提案してもらいます。

■入賞作品 昨年度分は本誌51号掲載、本年度分は次号掲載予定です。

■募集要項 本年度（終了）は左記の通り。来年度も同様予定です。

●募集期間 6月1日～10月31日

●応募規格 画用紙（ハッ切り）

●応募方法 当財団ホームページから所定の応募票をダウンロード

して必要事項を記入し、作品の裏面に添付

## 5 福祉事情に関する情報収集 及び提供

国内外各地の福祉施設や福祉事情などを視察し、小誌『WITH LIFE』でレポートを発表し、また「報告集」を発行しています。

■詳細は当財団へお問合せください。







生涯、快適に暮らしたい。